

ドイツ新連邦州の周縁観光地域における歴史都市の役割

友原 嘉彦

中国・北華大学外国語学部

The Role of Historic Cities in Peripheral Tourism Regions of the New Federal German States

Yoshihiko TOMOHARA

College of Foreign Languages, Beihua University, China

Abstract

The purpose of this study is to examine how the historic cities of the new federal German states (former German Democratic Republic=GDR) play a role in peripheral tourism regions. Mountainous, lakeside and seaside regions were chosen as examples.

冷戦終結から20年が経過し、共産圏であった東欧諸国はほぼすべての国家が EU に加盟するなど、これら諸国の急激な変容は目を見張るものがある。中でも、経済分野は国の重要な基盤となるため、その段階的な発展に着目する必要がある。特に観光業は経済を成長させ、また、政治や文化とも関係が深く、各国が注力している産業の1つである。本論文においては、観光に着目し、研究を行なった。

東欧諸国の中でいち早く民主化・資本主義化し、欧州統合の先駆的存在となったのが、かつてのドイツ民主共和国、現在のドイツ新連邦州である。この国家はドイツ連邦共和国と再統一を果たした結果、現在まであらゆる分野において再統一政府から開発・発展の支援を受けており、ほかの東欧諸国と比べて、極めて有利な状況であった。そのため、本研究では東欧における観光発展の先進事例と考えられるドイツ新連邦州について扱った。

ドイツにおける伝統的な観光は「中心」から「周縁」へという観光形態が強かったが、この形態がまだ根強く残る一方で、昨今では都市観光も盛んになってきている。ドイツ新連邦州の中規模都市が観光資源も持つ一方で、見本市などに代表されるようにビジネス客も取り込み、その双方において有力であるが、小歴史都市ではビジネス客と比して一般観光者の誘致が不可欠であることも多い。歴史都市の多くは国土の周縁に位置しており、こうした地方は往々にしてリゾート地でもある。このように観光の目的地としての歴史都市とリゾート地が近接していることも特色の1つとして挙げられる。東ドイツ期における観光客のフローは主として都市部からリゾートであり、その目的は保養活動であった。その一方で都市観光は盛んとはいえない状況であった。しかし、諸都市の経済を牽引してきた工業は、ドイツ再統一後に淘汰され、産業構造の転換を余儀なくされた。そういった中で諸都市は観光にも目を向け始めること

になった。そして、おりしも再統一後には冷戦中も手付かずのまま残った都市の歴史的・文化的遺産の価値が見直された。世界遺産に登録された旧市街や遺産を持つ都市は11都市となった。こうした都市は遺産をいち早く観光資源として活用し、観光振興に努めることになる。

先行研究は都市、あるいは、地域や新連邦州の州単位、新連邦州の全土レベルの研究に関しては充実してきたものの、都市が地域の中でどのような役割を演じているか、また、都市が世界遺産や観光街道などの影響をどのように受けているのかといった都市と「外部」との関係性について検討した研究において課題が残っていることが示された。都市、特に周縁の地方の小都市は観光において独立した存在であるのか。ほかとの連携をしているとすれば、それはどのようなものであるのか。また、地方と言っても山岳地方や湖水地方、海岸地方といった地方の違いの中で差は見られるのか、さらに地方内の都市においても都市によって差が見られるのか、といった疑問が生じた。これらの諸点を踏まえると、新連邦州の周縁観光地域に位置する歴史都市はどのような条件・要因の下で観光が発展するのかといった問題点が見えてきた。本研究はその条件と要因について明らかにすることを主な目的とした。これらの諸点を踏まえて、本論文では観光都市となり易い歴史都市に研究の焦点を当て、観光的に、①周縁に立地する歴史都市は広域の中でどのような観光的役割を担っているのか、②歴史都市の観光は山岳地方と湖水地方、海岸地方とでどのように異なった形態を示すのか、③歴史都市において世界遺産や観光街道といったテーマは観光にどのような影響を与えているのか、④同じ地方内においても歴史都市によって観光誘致力や観光の役割に差が生じるのか、⑤同じ地方内でも歴史都市によって観光誘致力や観光の役割に差が生じるとするならば、それはどこに要因があるのか。—具体的には上記の5つの研究テーマについて明らかにすることを目的とした。なお、研究対象地域は山岳地方としてハルツ地方、湖水地方としてメクレンブルク湖水地方、海岸地方としてバルト海沿岸地方を選定し、各地方においてそれぞれ複数の歴史都市（世界遺

産都市を含む）を研究対象とした。

本研究を遂行するため、まず、次章で新連邦州の観光における変遷をまとめた上で、各周縁地域に関しては、主にフィールドワークにおける聞き取り調査の結果と分析、データ・資料の分析に基づいて研究を行なった。聞き取り調査は対象別にさらに2つに分けた。1つは、市や州の観光当局、広域の観光連盟といった行政や観光運営サイドを対象とし、もう1つは宿泊業者を対象とした。宿泊施設は1市につき、タイプの異なる2施設以上を選んだ。本論文では各土地の観光の現状を把握するため、観光の受け入れ側に絞った。聞き取りの内容としては、観光地としての特徴、観光の重要性、広域におけるリゾート部との観光連携、観光における世界遺産の影響、観光街道など他都市との観光における結び付き、観光者の属性と観光パターン、観光における過去と現在の状況、そして未来についての考え方、などが中心である。統計資料からは市や郡、広域における観光者数や観光者出発国、月別観光者数、人口、失業率を押さえた。また、資料では、郷土史やガイドブック、パンフレットから観光地としての基本的特徴や変遷、観光資源について抜き出してまとめた。資料や聞き取り調査の分析にあたって、数値で示せる点は数値化し、文章の分析結果については項目毎に表にまとめ、一覧性を重視した。

本研究の結論としては、まず、研究目的の①周縁に立地する歴史都市は広域の中でどのような観光的役割を担っているのか—について、新連邦州の周縁観光地域における歴史都市の分類をまとめた。「リゾート」の魅力と「観光資源・観光施設の多様性」とは関係があり、また、「域内中心性やビジネス」と観光資源・観光施設の多様性も関係があることを示した。周縁観光地域における歴史都市はこれら3つの大枠とそれぞれどの程度関係があるかによって、観光地としての発展や役割が異なっていることが読み取れる。

歴史都市 A は3つの大枠すべてと関係が深く、観光地として成功している都市である。歴史都市 B は観光資源の多様性はそれほどではないが、リゾートとも関係が深く、さらに域内中心性があり、また、大学や病院、研究所が立地するなど観光以

外でも強みを持っており、それらの施設に関するビジネス目的の観光者も訪れている。現在でも観光都市として伸びてはいるが、観光資源の多様性を創出できれば、より一層、強みが増すであろう。歴史都市 C は後背のリゾート部とは一線を画した域内中心地である。観光街道を重視しているが、まだ観光誘致への影響は少ない。一方、新連邦州の中小都市が人口減少している例に漏れず、両都市は緩やかに活力を失っており、観光にしても、他の産業の誘致にしても、変革する時期に差し掛かっている。歴史都市 D は小さな市中心部における観光が代表的なパターンであり、観光者の滞在時間を延ばすことが難しい。リゾートとの連携も強くはない。周縁の観光地域においてリゾート部のみならず歴史都市も地域の観光地化の過程で重要な役割を担っていることが示された。

研究目的②歴史都市の観光は山岳地方、湖水地方、海岸地方とでどのように異なった形態を示すのか—についてまとめた。最も大きな違いはリゾート部との関係の強弱である。ハルツ山岳地方やバルト沿岸地方の歴史都市はリゾート部との関係が強く、交通や短期観光者の宿泊、リゾート部からの日帰り観光者といった観光における恩恵を被っているが、メクレンブルク湖水地方はリゾート部との関係が弱く、こうした恩恵も限定される。バルト海沿岸という比較的近距离に世界遺産級の高い代替性を持つ歴史都市がある。湖水地方における歴史都市の観光は山岳地方や海岸地方とは異なった形態を有していることが認められた。

研究目的③の歴史都市において世界遺産や観光街道といったテーマは観光にどのような影響を与えているのか—についてまとめる。まず、3つの

周縁観光地域における各歴史都市の観光関係者への聞き取り調査から、世界遺産であるか否かについては世界遺産の累積数の多いドイツにとって一般的に観光への影響はそれほど大きくないことが示された。ただし、都市によってその影響力は多少異なる。3つの大枠と関係が深い都市であれば世界遺産の観光への影響は比較的小さいが、大枠と関係性が薄い都市は世界遺産も観光広報によって一定の価値があると認められた。観光街道は各地方の歴史都市が繋がっているが、バルト海沿岸地方やメクレンブルク湖水地方ではレンガゴシック街道に注力し、期待も大きい一方、ハルツ山岳地方では活発ではなかった。観光への影響を言及するにはまだ顕著に現れてはいないが、すでに地域によって観光街道の活用に対する期待の差が見られた。このまま観光街道が流行りと廃りとに分されるのか今後の行方が注目される。

研究目的④の同じ地方内においても歴史都市によって観光誘致や観光の役割に差は生じるのか、⑤生じるとすればどこに要因があるのか—については、歴史都市 C や D は単独では観光誘致力を維持、向上するのに難しい状況であることが分かった。しかし、歴史都市同士の連携を密にすることで、歴史都市 A や B からの観光者を誘致することは可能であり、実際にたとえばハルツの歴史都市は域内を周遊する観光者も多い。また、観光資源は創出することが可能である。すでに触れたように東ドイツ期の都市の雰囲気の色濃く残す都市はこれまでそうした側面を積極的にアピールしていないが、(旧)西側諸国向けにはこのような資源も観光資源として活かすことができるのではないかと提言した。